

科目名	担当教員	授業方法	授業形態	履修者数	履修学年
総合的な学習の時間の理論と実践	金馬 国晴先生	講義	遠隔：リアルタイム	100名	1年

### 【授業内容】

シラバス上では、「総合的な学習（総合学習）について、テキストとワークショップを手がかりとして、考察を深める。各人が自分なりの、理想の単元計画を構成することをめざす。」としています。単元とは、授業の数週間や数か月のまとまりで、1年生にはつかみづらいものです。そこで、厳密な計画を書き上げるよりは、まず長い期間で連続するような学習・活動のまとまりについて、自分なりの大まかなイメージが図か文で描けるようになることをめざしています。

### 【授業の実施方法】

この科目は1年生の第4タームの12月・1月に当てられています（教育学部では珍しく短時間で1単位）。2か月間でかなりの能力を身に付けてほしいので、テキスト1冊＋αを予習、講義中、復習、自習でも使うものとししました。昨年（2020年）と今年（2021年）は毎回オンラインで行なわざるをえなかったため、Zoomではテキストの質問会とレクチャーや映像視聴、それらに関するブレイクアウト機能での討論を中心として進めた上で、宿題として毎週の、授業支援システムの「ディスカッション」機能を使った小レポートの提出と、「返信」機能を使った意見交換を組み合わせるようになりました。（この小レポートは、以前の対面の時代には、講義中に書いて提出してもらったものでした。）

なお、授業支援システムの「ディスカッション」機能は、学生が相互に見られ「返信」コメントも書き込める点が優れています。教員としては彼らのやりとりに任せることとし、コメントは全員それぞれに対してでなく、学生たちに混じってたまに書き込むにとどめました。教員から評価を受けるためとか、教員の意見が常に正しいとかという一方向のレポートにしないため、複数の友達からの多面的なコメントこそためになると感じてもらう意図もあります。

### 【授業準備にあたってのポイント・工夫した点】

Zoomの「ホワイトボード」機能を、一斉にお絵描きなどして慣れた後で、「ブレイクアウト」で各チームでの討論記録に使ってもらいました。グーグルの「ジャムボード」も併用し始めましたが、こちらの方は教員や学生が他のチームの記録を、作業の途中でも、また中間発表会でも、講義後の復習でも、互いに見られる点で便利でした。（ただし無料版は、1つのリンクで50人しかログインできないのが難点。）

また、小レポート代わりの宿題として、授業支援システムの「掲示板」の方に、SDGsの17のターゲットごとの欄を作り、子どもや友だちと観て考えたい動画や写真などのサイトを、理由や授業案とともに投稿してもらいました。授業の中では、「ブレイクアウト」機能で少人数に分かれ、投稿したものを順番に、画面共有をし合いながら説明し、質問やコメント、アドバイスを言い合う回を設けました。

なお、「ブレイクアウト」では、ランダムに振り分ける以外にも、テーマに関連する分け方（参加者と議論したい内容など）や、ときに基礎演習のクラスごと（とはいえ20名では多いので5名か10名ずつ）や出身地ごとで組んだりして、交流を広げてもらっています。とくにオンラインが続いた時期は話せてうれしかったようで、教員の資質としても重要なコミュニケーションの実感が得られたのだと思っています。

### 【従来の対面授業との違い】

Zoom 講義中は全員が顔を見せてくれないので反応がわかりませんが、事後の小レポートを見る限り、ほとんどが長くて量は多くなり、中には内容も深く時間をかけたことがわかるものが目立ってきています。ただ、量は概して多くなったとはいえ、文章の質と、すぐに書き込むかどうかとに、大きな学生間格差が開いたことが問題点ではあります。コロナ禍なので小レポートの締め切りを設定していなかったのですが、次回の講義直前に書き込む学生が多く、場合によってはそれ以降に数回分をまとめて書き込む学生さえいます。